

月形町

0338 安田康平

1.概要

1.1 地名の由来と歴史

月形町は、内務省御用掛権少書記官から樺戸集治監（1881 年～1919 年）の初代典獄に任ぜられた月形潔氏の姓を取り、1881 年 7 月 1 日、空知支庁管内第 1 号の村として誕生した。

樺戸集治監は、明治維新後の新政府が全国多数の国事犯や重罪犯を収容するため、全国で 3 番目、北海道では最初にシベツブト（現在の月形町）に設置された。この集治監の囚人による農地開墾や道路開削などが礎となり、今日の月形町がある。

主な歴史として、以下のことが挙げられる。1880 年に月形潔一行 6 名が集治監建設地選定の為、スベツ川河口より上陸をきっかけに、1881 年に樺戸郡月形町が空知管内第 1 号の村として誕生した。1882 年には樺戸、雨竜、上川の 3 郡役所を月形村に設置され、1891 年に月形村戸長役場設置、1889 年に浦臼村（現浦臼町）を分離した。その後、1906 年に二級町村制施行、1953 年町制施行、月形町となった。

月形町では、明治時代の 1886 年に樺戸の囚徒により上川道路（幌延～忠別太間）開削、上川・市来知・増毛・当別に至る道路開拓が行われた。このことによって今日の月形町の基礎が成り立った。その後 1894 年に月形潔は福岡県住吉村で死去した。この樺戸監獄は 1919 年に廃止され、39 年間の歴史に幕を閉じることになった。

その後長らくの時間が経過した 1973 年に月形少年院が開院、1983 年に月形刑務所が開庁した。

図 1 月形町町章



1.2 町章

6 片の雪花の中に、町名の頭文字「月」を丸形として挿入したもの。雪花は忍耐を現し、町民が開拓の厳しい試練によく耐え一円融合する意味で、月の字が丸形となっている。

1.3 キャッチフレーズ・シンボルマーク

●キャッチフレーズ 「まんまるはーと 月形町」

月、メロン、スイカなどから発想した「まんまる」に「はーと」をプラス。豊かな自然の中で、心豊かに生きる素晴らしさを、やさしい言葉の響きで表現している。

出典：月形町公式 HP

図 2 まんまるはーと月形町



出典：月形町公式 HP

●シンボルマーク

花をモチーフに、月形らしい温かさや豊かさを表現。花びら4つの色は月形の「大地」「情熱」「美しさ」「活力」をイメージし、筆によるラインで町の力をアピールしている。

2.地理・気候

2.1 地理

月形町は、東経 141 度 40 分、北緯 43 度 20 分（いずれも役場庁舎の位置）の位置にあり、北海道の中央西部、空知支庁管内の南西部を占める樺戸郡の最南端の町である。北は浦臼町、南東は石狩川を隔てて美瑛市と岩見沢市に、北西から南西にかけては石狩支庁管内の当別町と新篠津村に接しており、札幌市に約 50km、空知支庁所在地岩見沢市に約 20km、日本海岸の石狩市厚田区に約 30km の距離にある。町域は、東西に 15.6km、南北に 19.5km、周囲 68.5km、面積 151.05 km² で、北西部には森林地帯や丘陵地が広がり、中央部や南東部は石狩平野の一部を形成している。

図 3 北海道全体から見た月形町



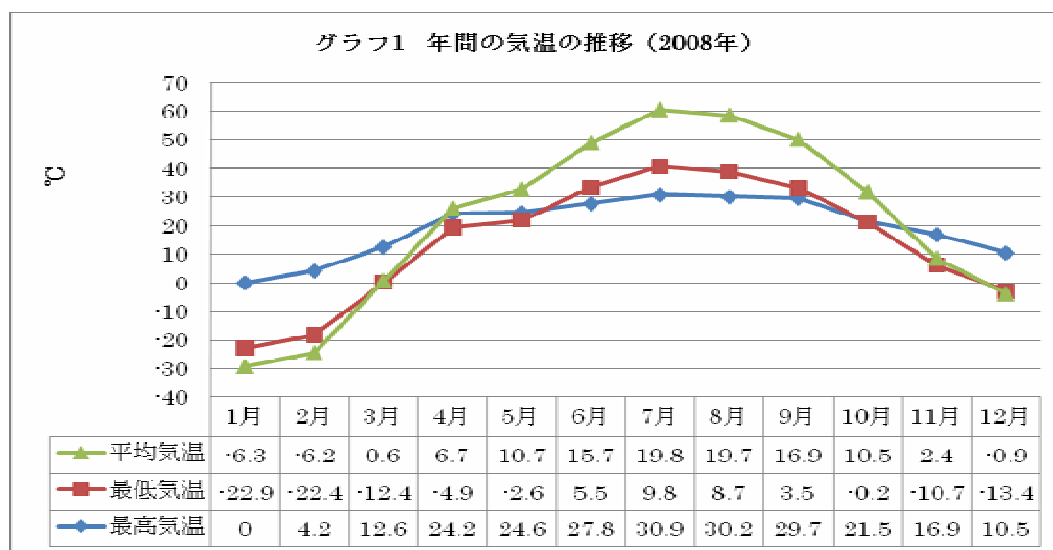
出典：月形町公式 HP（図 3・4 共に）

図 4 月形町周辺の地図



2.2 気候

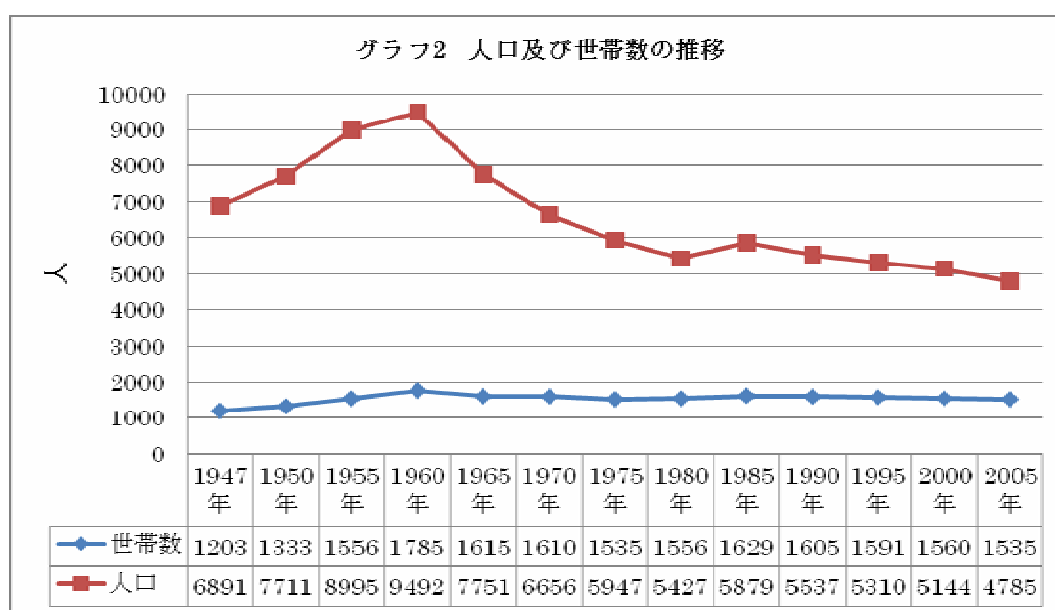
月形町の気候はやや内陸性で、冬は北西の寒風が増毛山脈によってさえぎられ、比較的積雪が多い割には、寒気はさほどでもない。7 月から 8 月の平均気温は 19～21℃、1 月から 2 月の気温は平均零下 6℃ぐらいで、1 年を通じて風は弱く過ごしやすい気候である。初雪は 11 月上旬、根雪は 12 月上旬ころで、融雪の 4 月下旬までの積雪期間は長く、最大積雪深は 150～220cm ぐらいである。また、年間降水量は 1,400mm 程度である。



出典：札幌管区気象台

3.人口及び世帯数の推移

月形町の人口は、1960年に9492人でピークに達しているが、その後は人口がどんどん減少しており、2005年では4785人まで減少している。このことから今日では月形町も少子高齢社会に向かっていることがわかる。また、世帯数は1947年の1203世帯から2005年の1535世帯までほぼ横ばい傾向にあり、推移はあまり変わらないことから、今日では核家族化が進行していることがわかる。

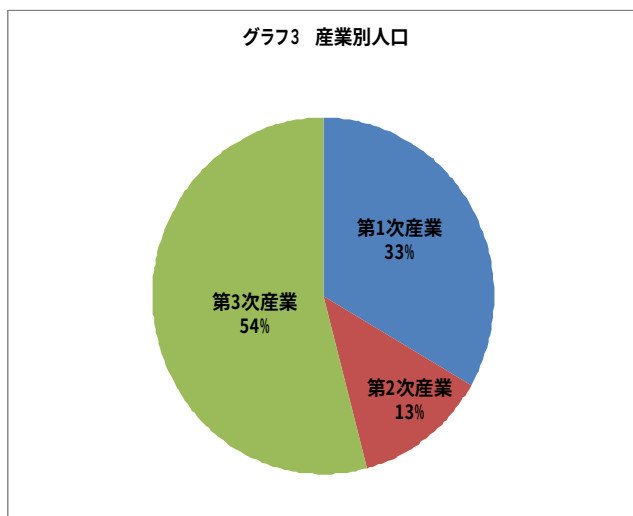


出典：総務省「国勢調査」

4.産業

4.1 産業別人口

産業別人口を見ると、第1次産業が663人、第2次産業が249人、第3次産業が1075人となっている。この数字を見ると、月形町では第3次産業、主にサービス・観光業の割合が54%と高いことがわかる。月形町では新規の企業誘致にも力を入れており、支援制度・融資制度がある。また、月形町は農業もさかんであるため、第1次産業の割合も33%となっている。一方で、月形町は第2次産業の割合が13%と少ないが、近年では月形町地域新エネルギービジョン策定という新エネルギーの具体的な導入・活用テーマを掲げ、民間事業者が生産している木質ペレットや、月形町で多く発生する農業残渣からのバイオマスエネルギー、雪を活用した雪氷熱エネルギー、太陽エネルギー等の利活用について検討されている。



出典：月形町公式 HP

4.2 農業

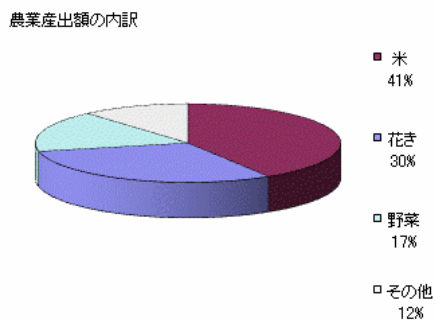
月形町は、稲作を中心とした農業の町である。ほかにもメロン・スイカ・カンロ・カボチャ・トマトなどの果菜、花き、近年は転作の推進により、小麦、大豆なども多く作付けされている。また、全道有数の切り花生産地であり、「花の里」テーマに花を活かしたまちづくりを進めている。そのため、月形町のカントリーサインには花とメロンが描かれている。近年では農家人口の減少が進んでおり、1995年には1567人であったが2005年には1179人まで減少しており、農家の高齢化は月形町も例外ではない。

図5 カントリーサイン



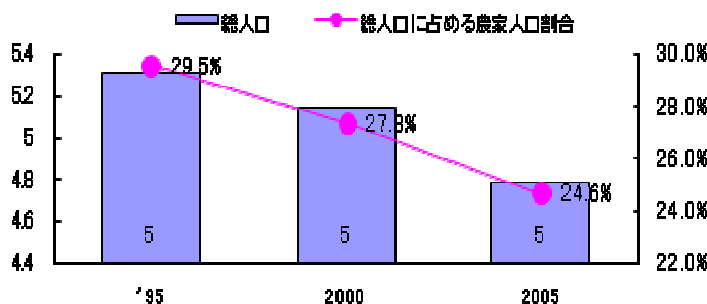
出典：北の道ナビ

グラフ4 農業産出額の内訳



出典：農林水産省 わがマチ・わがムラ

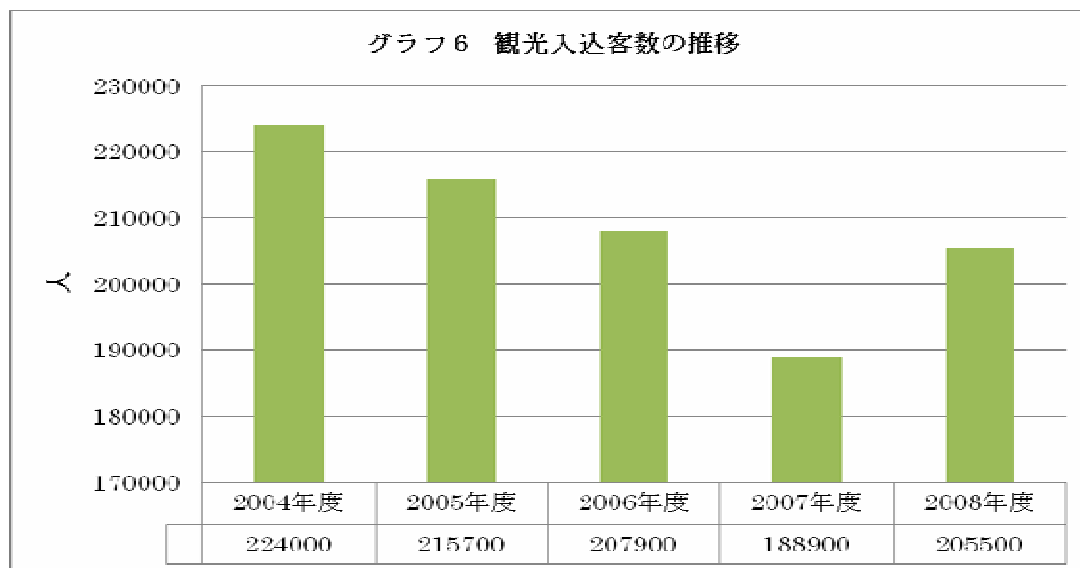
グラフ5 総人口に占める農家人口割合の10年間の動き



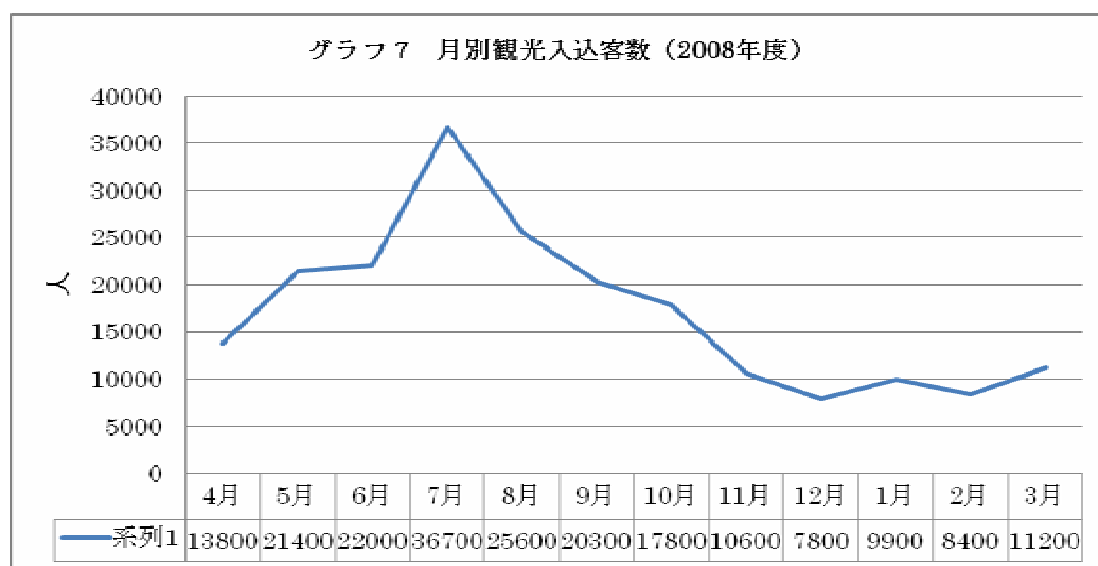
出典：農林水産省 わがマチ・わがムラ

5.観光

5.1 観光入込客数の推移



出典：北海道庁 観光入込客数調査報告書



出典：北海道庁 観光入込客数調査報告書

観光入込客数は2004年度には22万人を超えていたが、その後徐々に景気の悪化などの理由により減少しており、2007年には19万人を割り込んだ。しかしながら、2008年度には積雪が例年より遅くなったことや「月形温泉ゆりかご」来客数回復などから再び20万人を超え、観光客回復の兆しがある。また、月別の観光入込客数を見てみると、5月～9月にかけて観光客が2万人を超えており、特に7月は3万人を超えていることがわかる。この要因として、月形町では自然を生かした施設が多いことと今年は7月31日～8月1日にか

けて行われた「つきがた夏まつり」が開催されることが考えられる。

5.2 月形樺戸博物館

明治 14 年（1881 年）、現代日本の創世記のころ、明治 7 年（1874 年）の佐賀の乱、明治 9 年（1876 年）の神風連の乱、秋月の乱、萩の乱、明治 10 年（1877 年）の西南戦争など多くの内乱が発生した。明治政府は、これら内乱で逮捕された人たちを国事犯・反乱分子として、隔離・収監する必要に迫られ、その地を北海道に求めた。こうして、アイヌの人たちが「川が合流する地点」（シベツブト）と読んでいた月形に、全国で 3 番目・北海道で最初の集治監「樺戸集治監」が建てられた。初代典獄（現在で言う所長）は、月形潔でこの方の姓からまちの名前になった。この地は、背後にヒグマが生息する樺戸の山々を従え、全面にはとうとうと流れる原始の石狩川が広がる、逃亡不可能な自然の要塞だったのである。月形樺戸博物館は、樺戸集治監の開監から廃監までの 39 年間のあゆみを、豊富な資料でドラマチックに展示再現している。

館内は 3 つの建物で構成されており、1 つ目は旧樺戸集治監本庁官で、明治 14 年（1881 年）、開監当時の本庁舎が明治 19 年（1886 年）に火災で焼失したため再建された。大正 8 年（1919 年）廃監後は、町役場の庁舎として使用され、昭和 47 年（1972 年）からは、北海道行刑資料館として貴重な資料の展示を始め、平成 8 年（1996 年）、リニューアルに伴い名称を月形樺戸博物館としている。これは月形町指定文化財に指定されている。2 つ目は、博物館本館で 1 階と 2 階が展示室となっており、39 年間の貴重な資料を展示している。ストーリー仕立てとなっており、「樺戸集治監の建設」から「看守の暮らし」や「囚人の作業」について展示している。3 つ目は農業研修館で、農機具の資料展示をしており、熊や馬の剥製は迫力ある。先人の開拓には大変な苦労があったことがわかる。家の中で家族が作業する様子も見ることができる。

図 6 旧樺戸集治監本庁官



出典：月形町公式 HP

図 7 博物館本館



出典：月形町公式 HP

図 8 農業研修館



出典：月形町公式 HP

5.3 観光地

5.3.1 皆楽公園

水と緑が調和した自然公園。町民の憩いの場として利用されている。27ha の広大な敷地にキャンプ場、バーベキューコーナー、パークゴルフ場 etc.がある。公園の周囲は 3km のサイクリングロードになっていて、貸し自転車もある。またへら鮎釣でも全道有数の地として、多くの太公望が集まる。



図 9 皆楽公園

出典：月形町公式 HP

5.3.2 宿泊研修施設 はな工房

花の里の宿泊研修施設で、お勧めは、隣に建つ、冬でも使える土間の体育館「多目的アリーナ」と併用して、スポーツ合宿などの宿泊所としてご利用いただけることである。その他、ここでは、アレンジフラワーや押し花、ドライフラワーといった花を使った体験ができる。インストラクターも常駐していて、講習を受けることが可能で、施設内のフラワーショップでは、切花や鉢花のほか、各種園芸用品も販売していて、寄せ植えなどのアドバイスも受けることができる。また、施設内のレストラン“紫陽花”では「各種定食」を用意している。



図 10 はな工房

出典：月形町公式 HP

5.3.3 つち工房

自然を学べる農業体験施設。花のまちの宿泊施設「はな工房」の姉妹施設として建てられた。4 棟の温室では、花を見ることができる。冬でも一般公開している。このほか、オーナー農園、米づくり学ぼう田があり、農業を通じて都会の人たちとの交流も行っている。



図 11 つち工房

出典：月形町公式 HP

5.3.4 道民の森 (月形地区)

道民の森は、北海道が道民のために整備した、緑と水がたっぷりの自然の森である。6つの地区（神居尻地区、青山ダム地区、牧場南地区、一番川地区、月形地区、青山中央地区）が整備され、それぞれが特徴を持ってキャンプや緑に親しむことができるようになっている。6つの



図 12 道民の森（月形地区）

出典：月形町公式 HP

地区のうち月形町には月形地区があり、月形地区は、木工芸や陶芸など、森の恵みを体験することをテーマに整備された。親子で簡単な木工にチャレンジしたり、粘土をこねて自分だけのお皿やお茶碗づくりも体験したりすることができる。キャンプ場もありますので、キャンプをしながら、緑や虫たちなどと触れ合うあう絶好の場所である。

出典 HP

月形町公式 HP：<http://www.town.tsukigata.hokkaido.jp/index.jsp>

月形町観光協会 HP：<http://tsukigata-kanko.jp/>

北の道ナビ：<http://northern-road.jp/discover/index-cs.htm>

農林水産省 わがマチ・わがムラ：

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-02/430/agriculture.html>

Wikipedia：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

北海道庁 観光入込調査報告書：

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop>